

コラム 緑化植物 ど・こ・ま・で・き・わ・め・る

カツラ (*Cercidiphyllum japonicum* Sieb. et Zucc.)

久保満佐子 (国土交通省国土技術政策総合研究所)

kubo-m92te@nilim.go.jp



カツラは日本と中国の温帯に分布する雌雄異株の落葉高木で、白亜紀の地層から花粉の化石が出現する古い被子植物である。日本では、河畔域や崩壊跡地などの攪乱を伴う立地に自生し、樹高30m、幹径1m以上にもなる。一般にカツラは、多くの萌芽からなる巨大な株を形成し、その姿は威厳があり、かつ優美である。葉身はハート型の愛らしい形をし、秋には黄色く森を彩る。カツラの和名は「香出(かづ)」に由来し、落葉はカラメルのような甘い香りがする。沢沿いを歩いていると、この香りでカツラの存在に気づくこともある。

カツラは、人里近くでは、寺社のご神木として巨木が日本各地に存在し、街路樹としても利用されている。2008年の日本全国の街路樹では、樹種別本数 52,850 本、31 位(1位はイチョウ、571,688 本)である²⁾。古い記載では、京都市で昭和11年に街路樹として利用された記録が残っている⁸⁾。また、アメリカでは、Katsura treeとして知られ、公園木や街路樹として人気がある¹⁾。

カツラは春先の3~5月頃、開葉の前に開花し、樹冠は赤く色づく。種子生産量は年により変動するが、毎年結実し⁷⁾、また、埋土種子を形成する⁵⁾。カツラの種子は2mmほどの小型の風散布種子で、実生は双葉の頃は高さ1cmほどと極めて小さい。このため、リターの堆積した状態では発芽が困難で、主に土壌が露出した場所で発芽する。稚樹の生存には明るい光環境を必要とするが、相対光合成量子束密度100%の強い光環境では乾燥のためか枯死してしまい、60%ほどでよく生長する³⁾。また、カツラは萌芽力が強く、伐採などに対しては、直径5cmほどの幹からも萌芽を発生させる⁴⁾。

関東の河畔林では、カツラはシオジやサワグルミとともに林冠

を構成している。共存種のシオジやサワグルミはほとんど萌芽を持たず、シオジの樹齢は300年ほど、サワグルミは120年ほどと考えられている。これに対してカツラは、萌芽により幹の世代交代を行い、1個体で数百年以上生存することが予想される⁴⁾。

新潟県や福島県には、「カツラの巨木のあるところには人が埋められている」という伝承があり、カツラを埋葬の標木とする習慣があった⁶⁾。カツラの巨木が墓印だということによって、そのカツラの木を守り伝えたことが伺える。カツラの実生が芽生えてから(もしくは植栽されてから)、人間では何世代にもわたりその環境が守られてきた結果、カツラの巨大な姿を現在の我々が目にしている。先人たちが現在の我々につなげてきたように、樹木のある景観の創造や保全には、50年、100年先を考え、その空間を次の時代へと手渡していきたいものである。

引用文献

- 1) Dosmann, M.S. (1999) Katsura: a review of *Cercidiphyllum* in cultivation and in the wild. *New Plantsman*, 6(1): 52-62.
- 2) 国土技術政策総合研究所(印刷中)国土技術政策総合研究所資料No.506, 我が国の街路樹 .
- 3) Kubo, M., Sakio, H., Shimano, K. and Ohno, K. (2004) Factors influencing seedling emergence and survival in *Cercidiphyllum japonicum*. *Folia Geobotanica*, 39: 225-234.
- 4) Kubo, M., Sakio, H., Shimano, K. and Ohno, K. (2005) Age structure and dynamics of *Cercidiphyllum japonicum* sprouts based on growth ring analysis. *Forest Ecology and Management*, 213: 253-260.
- 5) 久保満佐子・川西基博・島野光司・崎尾均・大野啓一(2008) 秩父・大山沢河畔林における埋土種子の種構成. *日本森林学会誌*, 90(2): 121-124.
- 6) 野本寛一(1994) 共生のフォークロア 民俗の環境思想, 青土社, pp56-59.
- 7) Sakio, H., Kubo, M., Shimano, K. and Ohno, K. (2002) Coexistence of three canopy tree species in a riparian forest in the Chichibu mountains, central Japan. *Folia Geobotanica*, 37(1): 45-61.
- 8) 佐藤 昌(1969) 道路と造景 - 並木と植栽 -, 都市計画研究所, pp8-13.



萌芽株



種子

双葉